

ガランタミンOD錠12mg「JG」の安定性試験(PTPシート)

1. 試験目的

ガランタミンOD錠12mg「JG」は、PTPシートをアルミピローに乾燥剤とともに封入したものを紙箱に入れている。本試験ではアルミピローから取り出しPTPシート単独で保存したものの安定性を確認した。

2. 保存条件、包装形態

保存条件:

- ・温度に対する安定性試験: 40±2°C 3ヵ月 [遮光]
- ・湿度に対する安定性試験: 25±2°C/75±5%RH 3ヵ月 [遮光]
- ・光に対する安定性試験: 120万lx・hr(約4000lx[D65]・12.5日) 25°C

包装形態: PTP(ポリ塩化ビニル・ポリエチレン・ポリ塩化ビニリデン複合シート、アルミニウム箔)

3. 試験項目

性状、純度試験(類縁物質)、崩壊性、溶出性、含量、硬度<参考値>

4. 評価方法

「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」(平成11年8月20日(社)日本病院薬剤師会学術第5小委員会)の評価分類基準に準じる。<安定性の評価基準の項参照>

5. 試験結果

		規格	試験開始時	3ヵ月後
温度	性状	白色の素錠	白色の素錠	変化なし
	純度試験	各々の類縁物質質量 0.1%以下 総類縁物質質量 0.5%以下	適合	適合
	崩壊性(秒)	2分以内	26(21-30)	28(24-31)
	溶出性(%)	15分間で85%以上	98.8(96.0-100.6)	98.3(95.6-100.5)
	含量(%)	表示量の95.0~105.0% [開始時100%]	100.55 [100]	100.78 [100.2]
	硬度(N)	参考値	59	61
	評価			—

		規格	試験開始時	1ヵ月後	2ヵ月後	3ヵ月後
湿度	性状	白色の素錠	白色の素錠	変化なし	変化なし	変化なし
	純度試験	各々の類縁物質質量 0.1%以下 総類縁物質質量 0.5%以下	適合	適合	適合	適合
	崩壊性(秒)	2分以内	26(21-30)	23(21-28)	24(20-27)	23(20-25)
	溶出性(%)	15分間で85%以上	98.8 (96.0-100.6)	99.2 (96.7-102.5)	98.6 (95.9-101.5)	98.1 (96.2-101.3)
	含量(%)	表示量の95.0~105.0% [開始時100%]	100.55 [100]	100.46 [99.9]	100.61 [100.1]	101.29 [100.7]
	硬度(N)	参考値	59	53	52	50
	評価			—	◎	◎

崩壊性(秒)・溶出性(%): 平均(最小-最大) 硬度: 1N≒0.1kgf

		規格	試験開始時	120万lx・hr
光	性状	白色の素錠	白色の素錠	変化なし
	純度試験	各々の類縁物質 0.1%以下 総類縁物質 0.5%以下	適合	適合
	崩壊性(秒)	2分以内	26(21-30)	23(20-27)
	溶出性(%)	15分間で85%以上	98.8(96.0-100.6)	98.6(97.0-99.8)
	含量(%)	表示量の95.0~105.0% [開始時100%]	100.55 [100]	100.22 [99.7]
	硬度(N)	参考値	59	62
	評価			—

崩壊性(秒)・溶出性(%):平均(最小-最大) 硬度:1N≒0.1kgf

6. 結論

いずれの保存条件についても、すべての試験項目において変化を認めなかった。なお、本剤の電子添文に以下の記載がある。

20. 取扱い上の注意

20.2 高温多湿を避けて保管すること。

20.3 錠剤表面に斑点が認められることがあるが、使用色素によるものであり、品質に影響はない。

安定性の評価基準

安定性の評価は、「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」に記載された試験項目毎の評価基準に従って行った。

【性状】

分類	評価基準
変化なし	外観上の変化を、ほとんど認めない場合
変化あり(規格内)	わずかな色調変化(退色等)等を認めるが、品質上、問題とならない程度の変化であり、規格を満たしている場合
変化あり(規格外)	形状変化や著しい変化を認め、規格を逸脱している場合

【純度試験・崩壊性・溶出性】

分類	評価基準
変化なし	規格値内の場合
変化あり(規格外)	規格値外の場合

【含量】

分類	評価基準
変化なし	含量低下が3%未満の場合
変化あり(規格内)	含量低下が3%以上で、規格値内の場合
変化あり(規格外)	規格値外の場合

【硬度】

分類	評価基準
変化なし	硬度変化が30%未満の場合
変化あり(規格内)	硬度変化が30%以上で、硬度が2kgf(19.6N)以上の場合
変化あり(規格外)	硬度変化が30%以上で、硬度が2kgf(19.6N)未満の場合

安定性の評価分類

安定性の評価分類は、原則として無包装状態での安定性試験における、保存条件、試験項目および試験結果から、下記の評価分類に従って分類した。

試験結果	評価
測定された全ての試験項目で変化を認めない	◎
いずれかの試験項目で、「規格内」の変化を認める	○
いずれかの試験項目で、「規格外」の変化を認める	△

※平成11年8月20日付「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」(日本病院薬剤師会)に準ずる。